



コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続)
奨励賞(審査委員長賞)

038

大工の手

一般社団法人わざわ座

概要

「大工の手」とは、木の家を建てた大工が、誠実な素材でその家に似合う家具をつくり、家と一緒に永く愛着をもって使ってもらう。それを工務店とデザイナーが支援する。木の家具をつくと共に心が繋がる新しい家具のかたち。そして「手仕事を広める運動」です。大工は木を使いこなす手技をもっていますが、その手を活かす環境がここ数年で極端に減り、大工のなり手も少ない。身近な家具をつくることで、その技を活かして誇りを生む仕事にしてほしい。そんな想いも「大工の手」の目的のひとつです。家具の計画は、手仕事集団「わざわ座」に参加する地域のデザイナーが手がけ、生活と環境を心がけた持続可能な家具を目指します。大工・工務店が工房となる新たな「デザイン×ものづくり」のプラットフォームです。

◆<http://wazawaza.or.jp>

仕様:Jパネル

価格:おおよそ15,000円~150,000円(大工の手製品の販売価格)

入手先:「大工の手」の活動に取り組む工務店

評価ポイント 大工が家を作り、その延長線上で家具も作ることで、家具と家をつなげていくユニークな取組。大工とデザイナーのコラボレーションによって質の高い家具開発が実現しており、住まいと家具双方に木づかいの愛着を促している。



コミュニケーション分野 | イベント・ワークショップ(継続)
奨励賞(審査委員長賞)

039

「セブンの森」プロジェクト

一般財団法人セブン-イレブン記念財団、株式会社セブン&アイホールディングス

概要

一般財団法人セブン-イレブン記念財団が2006年から取り組んでいる「健全な森づくり活動」です。地球温暖化防止対策、生き物豊かな森づくり、美しい景観や環境の保全、環境学習など、行政や森林組合、NPO法人などと協定を結び、「長期的な視点で継続して活動する」をキーワードに全国15ヶ所の「セブンの森」では地域のセブン-イレブン加盟店と本部社員が森づくり活動を行っています。セブンの森の間伐材を活用したセブン-イレブン店頭募金箱の作成や2015年4月に開校した「高尾の森自然学校」の管理棟は、「宮城セブンの森」の間伐材で建築されています。またセブン&アイホールディングスでは紙製飲料容器の商品化、セブンカフェ(年間約4億6千杯)のホットカップ、グループ社員の名刺作成などを進めています。木の本来の特長を最大限に活かした「モノづくり」にも取り組み、「木を循環させる日本文化」で人と人の交流を育みたいと考えています。

◆http://www.7midori.org/katsudo/prevent_warming/711forest/index.html

評価ポイント 可視化された企業のCSV、CSRプログラムとして規模、質とも完成度が高い。小売・流通事業者として、包装容器を通じて最も接点のある一般生活者に木づかいの重要性を伝える取り組みも評価できる。



技術・研究分野 | 技術 | 奨励賞(審査委員長賞)

040

丸太打設液状化対策&カーボンストック(LP-LiC)工法

飛鳥建設株式会社、兼松日産農林株式会社、昭和マテリアル株式会社

概要

本技術は、丸太を地中に大量に打設することで、地震によって生じる液状化被害の防止と地球温暖化緩和を同時に実現するものです。液状化現象は、地下水が浅く緩い砂地盤で地震時に生じる現象です。丸太を地盤に打設することで緩い砂地盤を密実にして、液状化を防ぎます。液状化の生じる地盤は地下水位が浅いため、そこに打設した丸太は地下水位以下に位置することとなり、そこには空気がないので腐朽等の生物劣化を生じることがなく、地中で半永久的に健全な状態を維持します。このため、光合成により大気中から二酸化炭素を吸収し、木材に蓄積された炭素を地中に長期貯蔵することが可能になり、温室効果ガス削減に貢献します。丸太に貯蔵された炭素貯蔵量は絶大で、工事によって排出される二酸化炭素量に比べて遥かに大きく、工事の実施自体が温室効果ガスの削減に貢献していきます。

◆http://www.tobi-tech.com/tech/carbon_stock.htm

仕様:最大深度12m、丸太末口径13~18cm、丸太長さ6m以下

価格:100㎡の改良で200~400万円(地盤による)

入手先:飛鳥建設株式会社

評価ポイント 昔から木杭があったが、それを科学的に証明し現代構法に活かせるようにした点は、防災意識が高まる現在において改めて社会的インパクトが大きい。木材学会、土木学会、森林学会が協力した点も評価に値する。